

科目名	精神看護援助論Ⅰ		時期		時間	単位
担当教員	非常勤講師		2年次	後期	30時間	1単位
科目設定理由	今日の日本の精神医療は、入院治療から地域生活支援へ移行を目指す取り組みが行われ、また治療より予防へとシフトしてきている。そして精神疾患が五大疾患として国民の健康に関する施策に盛り込まれたことや、精神障害を持つ人々たちへの新しい支援の考え方である「リカバリ」「ストレングス」に基づく支援の方向性が打ち出され、精神医療に関連する施策の変化や医療、看護を提供する際の方向性が変化している。そこで、社会の変化の流れに対応した、精神の健康を支援する看護師を養成することを目的として当該科目を設定した。					
学習目標	1 精神の健康障害や精神症状について、看護の基本となる考え方、技術を理解する 2 精神に障害のある人の特徴と看護援助を理解する					
授 業 計 画						
回数	項目	内容				備考
1~5	主要疾患別看護	1 統合失調症のある患者の看護 2 気分（感情）障害のある患者の看護 3 アルコール依存症、嗜癖のある患者の看護 4 発達障害（ADHD、ASD、アスペルガー障害） 5 神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害のある患者の看護 6 パーソナリティ障害、摂食障害のある患者の看護 7 精神に障害をもつ人の家族の看護				講義
6~7	主要症状別看護	1 幻覚・妄想のある患者の看護 2 抑うつ、引きこもりのある患者の看護 3 拒絶、興奮状態にある患者の看護 4 自己破壊行動のある患者の看護 5 操作、依存状態にある患者の看護				講義
8	精神科の治療と身体のケア	1 薬物療法とその副作用 2 電気けいれん療法（ECT）				講義
9~10	回復を支えるさまざまなプログラム	1 作業療法、レクリエーション療法 2 社会生活技能訓練（SST）（演習） 3 認知行動療法（CBT）				講義 演習
11~13	地域における精神看護	1 退院支援 2 神科デイケア 3 精神科訪問看護、ACT（包括型地域生活支援プログラム） 4 セルフヘルプグループ 5 就労移行支援・就労継続支援A型・B型 6 グループホーム、援護寮、家族会など				講義
14	精神科における安全管理と患者の権利擁護	1 行動制限と看護 2 暴力・無断離院 3 アドボカシー				講義
15	終講試験					
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1] 精神看護の基礎	武井 麻子 他		医学書院		
	系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2] 精神看護の展開	武井 麻子 他		医学書院		
参考図書・資料等						
評価方法	筆記試験、グループワーク、レポート、出席状況などを総合的に評価する					